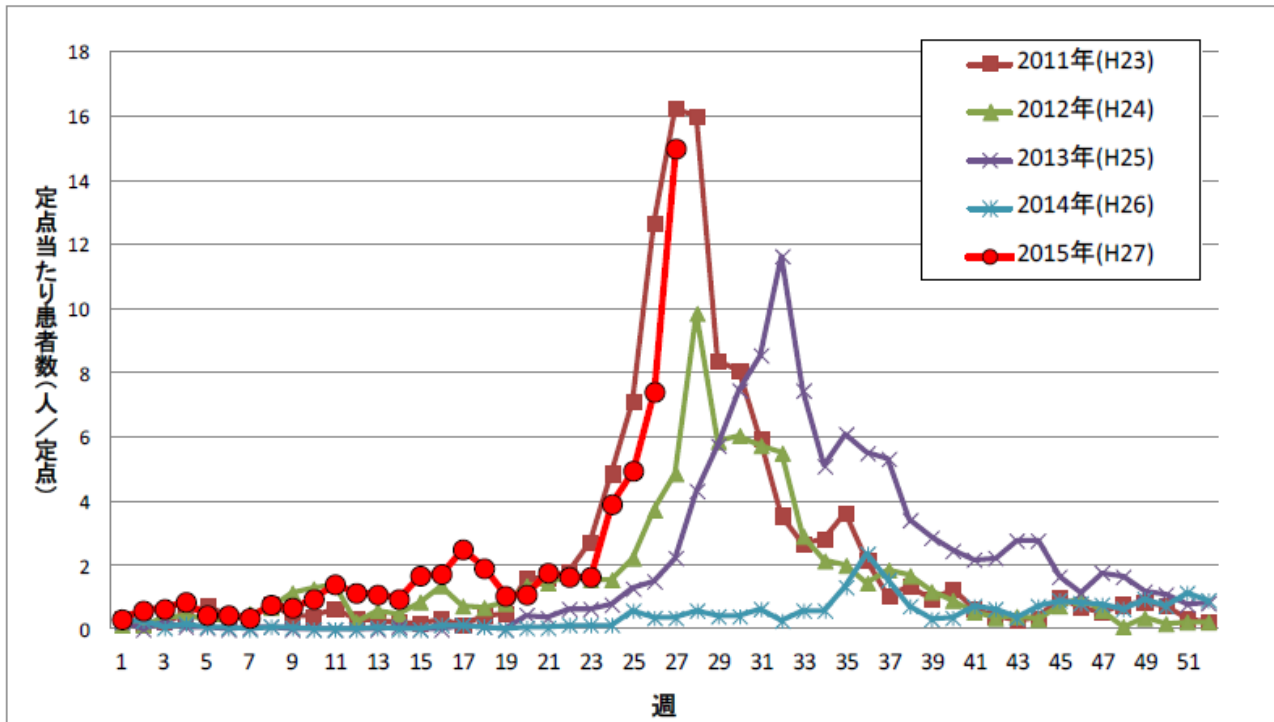


## 【福井県における手足口病の定点当たり患者数推移（過去5年間）】



## 【手足口病の概要】

- ・手足口病は、口の中や、手足などに水疱性の発しんが出る感染症で、現在、福井県では主に5歳以下の乳幼児（特に1歳児）に患者が発生しています。
- ・感染経路は、飛沫感染、糞口感染、接触感染（水疱内容からの直接感染など）です。
- ・保育所や幼稚園では、子ども同士が濃厚な接触が生じやすい環境であり、衛生観念がまだ発達していないことから、しばしば集団感染がおこります。
- ・有効なワクチンや薬はありませんが、発病しても軽い症状だけで治ってしまうことがほとんどです。ただし、高熱が出る、発熱が2日以上続く、嘔吐する、頭を痛がる、水分が十分に取れない、ぐったりとしているなど場合には、すぐに医療機関を受診する必要があります。

## 【手足口病の予防法】

- ・トイレやおむつを交換したあと、食事の前などに、流水と石けんでしっかりと手洗いをすることが最も重要です。（ヘルパンギーナや感染性胃腸炎など、他の感染症も予防できます。）
- ・タオルの共用はしてはいけません。